

2018年10月25日

受益者の皆さまへ

三井住友アセットマネジメント株式会社

三井住友・スーパーアクティブ・オープンの基準価額下落について

(10月25日の基準価額の変動要因についてのお知らせ)

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

2018年10月25日、以下のファンドの基準価額が前営業日比5%以上の下落となりましたので、要因等についてご報告致します。

1. 基準価額が前営業日比5%以上下落したファンドの名称とその状況

ファンド名	基準価額 (円) (2018年10月25日)	前営業日比 (円) (2018年10月24日比)	変動率
三井住友・スーパーアクティブ・オープン	5,148	-364	-6.60%

2. 基準価額の変動要因等について

米中貿易摩擦の長期化が世界経済や企業業績に与える悪影響への懸念から前日の米国株式市場が大幅に下落したことを受けて、国内株式市場も全面安の展開となりました。為替市場で円高ドル安が進行したことも嫌気されました。東証1部では日経平均株価が終値21,268.73円で前営業日比▲822.45円(下落率▲3.72%)と下落し、東証株価指数(TOPIX)が終値1,600.92ポイント(同▲3.10%)、TOPIX先物12月限は終値1,605.5ポイント(同▲2.55%)となりました。さらに、新興市場ではJASDAQ-TOP20が4,274.35ポイント(同▲5.02%)、東証マザーズ指数は900.16(同▲6.36%)と大幅に下落しました。

当ファンドは、現物株式の組み入れのほか株券オプション取引、株価指数先物取引および株価指数オプション取引等を活用することにより、実質組入比率の上限を信託財産の純資産総額の200%までとし積極的な運用を行うファンドです。10月24日現在で現物と先物を合わせた実質組入比率を170%台と高位で推移させていたこと、現物株式では下落幅の大きかったサービス業や電気機器セクターの組入れが多かったことが基準価額の主な下落要因となりました。

3. 今後の見通し

世界経済の先行きや為替相場の動向を巡り、リスクオフムードが高まる中、短期的には軟調な相場展開が続く可能性が高くなっています。一方で、国内企業の7-9月期の決算発表が本格化することもあり、業績見通しなどと比較して過度に売り込まれた銘柄については押し目買いの動きが出てくることも期待できることから、割安な銘柄や業種を探る選別物色の動きが強まることが予想されます。

以上

【当資料のご利用にあたっての注意事項】

- この資料は、三井住友アセットマネジメント株式会社が作成したものです。一般社団法人投資信託協会規則に基づき制定した当社社内ルールに従い、受益者の方に「ファンドの基準価額に重大な影響を与えた内容の開示」を行う受益者様用資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 投資信託は、値動きのある証券(外国証券には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 投資信託は、クローズド期間、国内外の休祭日の取扱い等により、換金等ができないことがありますのでご注意ください。
- 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に市場環境にかかるデータ・分析、運用・分配金実績、運用方針等が示される場合、それらは当資料作成時点のものであり、将来の市場環境・運用成果等を保証するものではありません。分配金は金額が変わる、または分配金が支払われない場合もあり、将来に関し述べられた運用方針も変更されることがあります。